

I 研究主題と副題

未来に希望をもち、主体的に学び続ける子どもの育成
～キャリア教育の指導の充実をとおして～

II 主題設定の理由

国富町では、「未来に希望のもてる国富を創り支える教育の展開」を活動の指針として、「第五次国富町総合計画」の「心豊かでいきいきと輝く人づくり」を目指し、「くにとみ教育ビジョン」の「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」をキーワードとした教育をすすめている。

本教育研究センターでは平成24年度から昨年度まで、確かな学力の向上を目指し、市川伸一氏の提唱する「教えて考えさせる授業」の考え方を活かした授業改善や家庭学習の指導に取り組んできた。成果としては、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる有効な指導法であることが確認でき、自らの指導方法の一つとして取り入れることで指導法の幅が広がった教職員が多いこと、さらに、学力下位層の児童生徒に対しても、基礎的・基本的な内容を身に付けさせることができたことなどが挙げられる。

本年度の取組については、町内の子どもたちの実態や各学校の教育的課題について協議する中で、あらためて「くにとみ教育ビジョン」の4つのキーワード「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」に立ち返って取り組む必要性と意義が明らかになった。そこで、本年度は、子ども達がよりよく生きるための手立てとして、キャリア教育に関する内容を研究内容にすることとした。

特に、キャリア教育で育成すべき力としての「基礎的・汎用的能力」（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）を意識した教育活動の充実を目指すものとした。

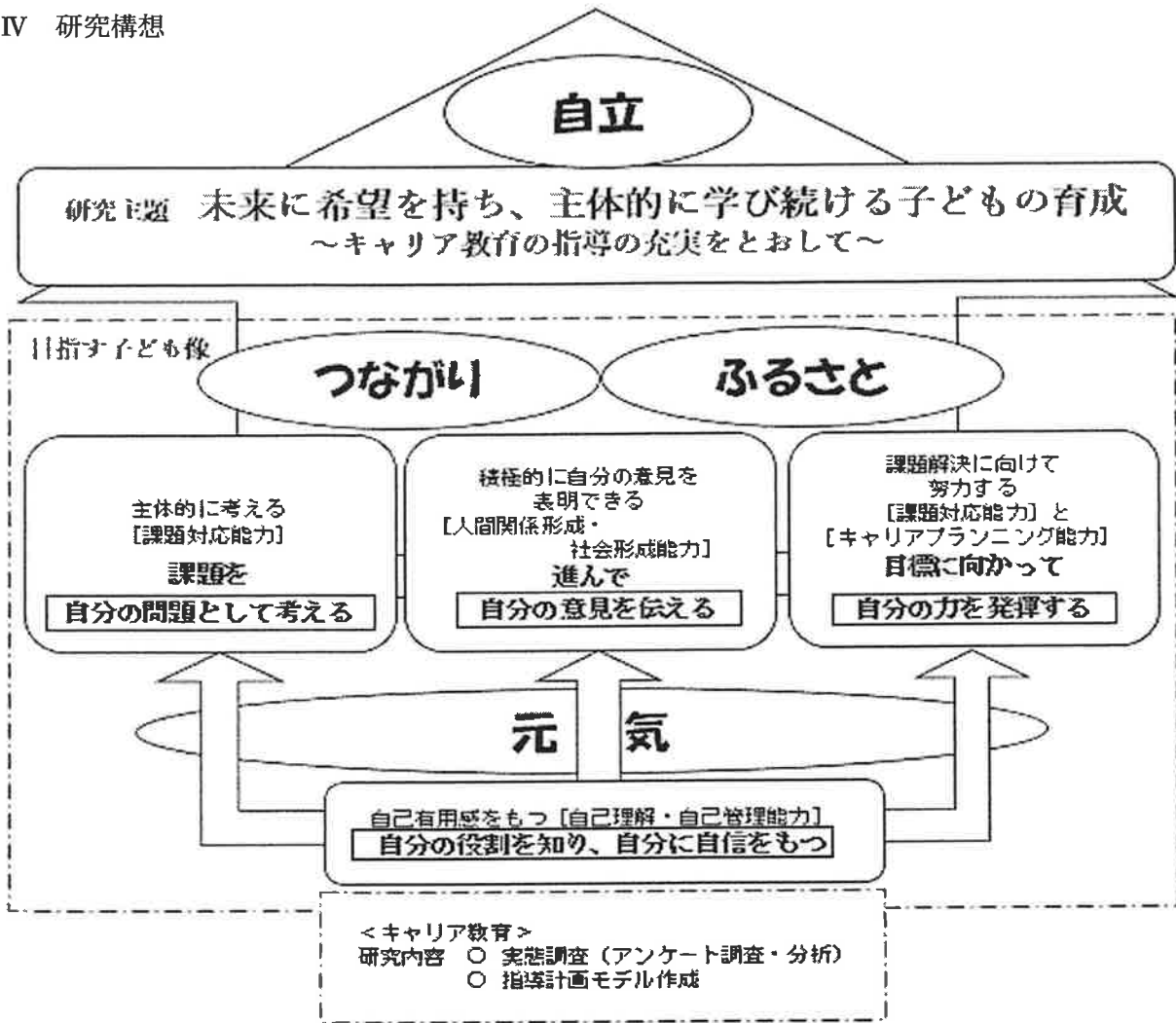
本教育研究センターのこのような研究は、町の教育的課題に応えるものであるとともに、「くにとみ教育ビジョン」の具現化に迫るものであり、たくましく未来を切り拓く児童生徒の育成を目指す上で意義深い。

III 目指す子どもの姿

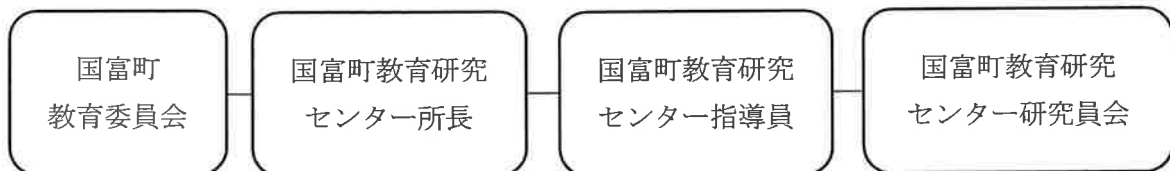
町内各学校の「キャリア教育全体計画」、「全国学力・学習状況調査」の「児童生徒質問紙」の回答結果、さらには本教育研究センターで実施したアンケート調査の結果などから、次のように設定した。

- 高い自己有用感をもち、主体的に考え、積極的に自分の意見を表明できる子
- 学んだことを活かして、課題解決に向けて努力する子

IV 研究構想



V 研究組織



<資料> キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」

人間関係形成・ 社会形成能力	A	他者の個性を理解する力	C	チームワーク
	B	コミュニケーションスキル	D	リーダーシップ
自己理解・ 自己管理能力	E	自己の役割の理解	H	忍耐力、ストレスマネジメント
	F	自分のよい所を活かす	I	前向きに考える力、主体的行動
	G	規範意識		
課題対応能力	J	情報の理解、選択、処理等	L	計画立案、実行力、評価・改善
	K	本質の理解、原因の追究、課題発見		
キャリアプラン ニング能力	M	学ぶこと、働くことの意義や役割の理解	O	行動・改善
	N	将来設計、選択		

くにとみ教育ビジョン

「心豊かでいきいきと輝く人づくり」

自立

夢や希望をもって未来を切り拓き、いきいきと人生を楽しむ

つながり

地域づくりと子どもの教育を
全ての町民で推進する

横のつながり（連携）

- ア 町民みんなで、安全で楽しく強い絆の地域づくりに取り組みます。
- イ 学校・家庭・地域で連携して、将来を担う子どもを守り、育てます。
- ウ 地域の子育て支援、学校支援体制づくりを進めます。

縦のつながり（一貫）

- ア 幼児教育から小中学校まで、一貫した教育を推進します。
- イ 学校や幼児教育機関相互の連携を推進します。
- ウ 心ふれあう世代間交流事業を促進します。

ふるさと

歴史や伝統・豊かな自然を守り、
人づくりに活かす

郷土愛に支えられた国富ならではの教育

- ＜ふるさとを愛する人づくり＞
- ア 豊かな自然環境を大切に守ろうとする心を育てます。
- イ 「くにとみ学」や町民のふれあいを通して、国富を愛し、大切に思う心を育てます。

＜伝統と文化の保護・活用促進＞

- ア フィールドミュージアム構想を核として、伝統文化や古墳・史跡の保全と整備により、教育への積極的な活用を進め、町の活性化に活かします。
- イ 生涯学習講座等を通して、伝統と文化の保護と活用を進めます。
- ウ 文化関連施設の整備、文化的行事の充実を図ります。

元気

生涯にわたる町民の学習と
健康づくりを充実する

活気あふれる学校教育を創造する

一人1学習・1スポーツの推進

- ＜生きがいを育てる生涯学習の推進＞
- ア 個性を発揮し、絆を深める各種講座を充実します。
- イ ライフステージに応じた自己実現の活動を支援します。
- ＜スポーツ、レクリエーション活動と健康づくりの推進＞
- ア スポーツ環境を整備するとともに、指導者の育成や組織の活性化を図ります。
- イ アリーナくにとみを拠点に、スポーツや健康づくりを図ります。

未来を切り拓く生きる力の育成

- ＜確かな学力と豊かな心をもち、心身ともにたくましい子どもの育成＞
- ア 授業の工夫改善を進め、子どもの学ぶ意欲と学力を保障します。
- イ 生命尊重の心、強い精神力を育みます。
- ウ キャリア教育や食育・体育、特別支援教育充実のための教育内容の整備を進めます。
- ＜教育諸条件の整備＞
- ア 教職員の研修を充実し資質向上を図ります。
- イ 教育施設・設備など教育環境の整備・充実を図ります。
- ウ 教育に関する相談体制を充実し、就学を円滑に進めます。

VI 研究の実際

県教育研修センターによる派遣講義『キャリア教育実践の在り方』の中で、学校の全体計画作成においては児童生徒の実態を十分に分析した上で、身に付けさせたい力を4つの「基礎的・汎用的能力」として具体的に明らかにすることが重要であるという話があった。本教育研究センターとしても、町内の児童生徒の実態を知ることが必要であると考え、町内全学校の全児童生徒を対象に、キャリア教育に関するアンケート調査を7月中旬に実施することにした。

1 実態調査

(1) アンケート調査の実施

「キャリア教育の手引き」のアンケート例を参考に、「小学校低学年用」「小学校中学年用」「小学校高学年、中学校用」の3種類のアンケートを作成した。

調査項目については、各学校のキャリア教育全体計画や他県の研究資料等を参考にしながら「基礎的・汎用的能力」の内容や趣旨を十分に踏まえ発達段階に応じたものとし、子どもたちの負担を考慮して朝の会や帰りの会の時間内で実施できるものとした。

調査項目は、「小学校低学年用」が14項目、「小学校中学年用」と「小学校高学年・中学校用」が15項目とした。

<アンケート例>

キャリア教育アンケート（小学校中学年用）

国富町教育研究センター

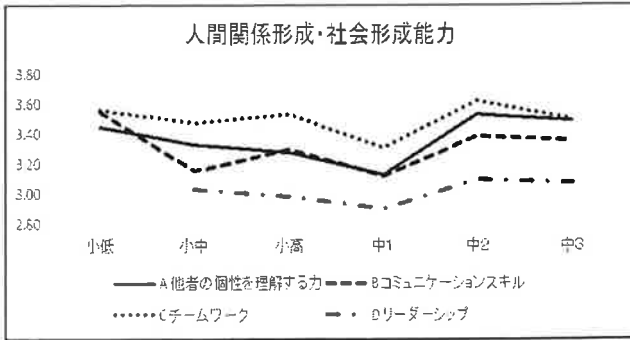
◇ これはテストではありません。あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全般を含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○を付けてください。

4：いつもしている 3：時々している 2：あまりしていない 1：ほとんどしていない

①	友達 <small>ともだち</small> の気持ち <small>きもち</small> を考え <small>かんが</small> 、理解 <small>りかい</small> しようとしていますか。	4	3	2	1
②	自分 <small>じぶん</small> の気持ち <small>きもち</small> や考え <small>かんが</small> を伝え <small>つた</small> えようとしていますか。	4	3	2	1
③	友達 <small>ともだち</small> と協力 <small>きょうりょく</small> して、学習 <small>がくしゅう</small> や活動 <small>かつどう</small> をしていますか。	4	3	2	1
④	班 <small>はん</small> やグループでの活動 <small>かつどう</small> の時 <small>とき</small> 、指示 <small>しじ</small> を出したり、声 <small>こゑ</small> をかけたりしてみんなを引っ張 <small>ひっぱ</small> っていますか。	4	3	2	1
⑬	学習 <small>がくしゅう</small> や係活動 <small>かかりかつどう</small> などの大事 <small>だいじ</small> さを感じ <small>かん</small> じていますか。	4	3	2	1
⑭	将来 <small>しょうらい</small> の夢 <small>ゆめ</small> はありますか。	4	3	2	1
⑮	学習 <small>がくしゅう</small> や生活 <small>せいかつ</small> の中で、自分 <small>じぶん</small> のことは自分 <small>じぶん</small> でしようとしていますか。	4	3	2	1

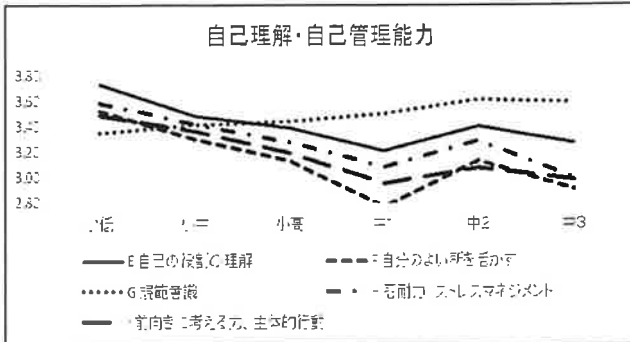
(2) 調査結果と考察

町内全部の児童生徒の回答を集計し分析を加えた。考察の一部を掲載する。



<人間関係形成・社会形成能力に関する考察>

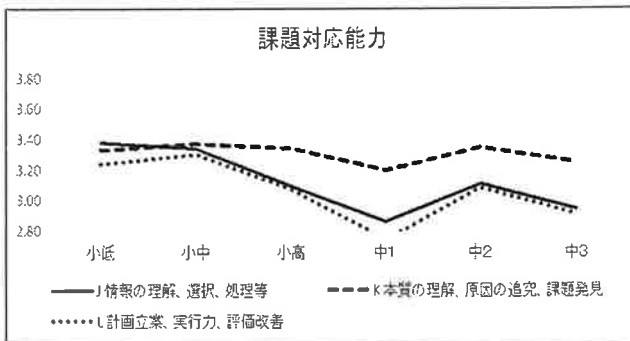
全体を通して、本町の児童生徒は、協調性はあるが、自ら前面に出て周囲を引っ張っていくことへの意識は低い傾向がある。学校生活において、そのような場が少なく、リーダー性を発揮できる機会が少ないことにも要因があるようである。



<自己理解・自己管理能力に関する考察>

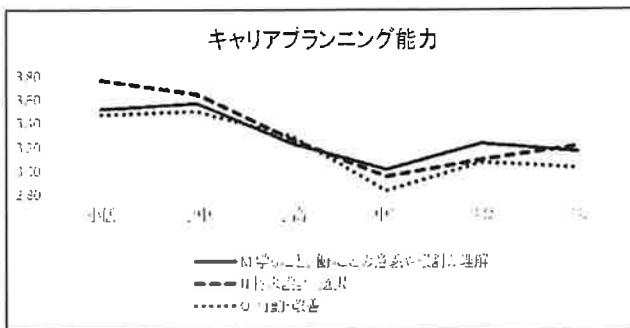
自己理解 (E) については、どの学年も低くはないが、学年が上がるにつれて下がる傾向がある。

EとFとの関連から、自分の得意なことなどを理解していても、その活かし方が分かっていないようである。周囲に遠慮して自分の長所を活かしていないようにも思われる。成功体験を増やしたり、たくさんほめたりすると自信がついてFの項目が伸びてくるのではないかと考えられる。



<課題対応能力に関する考察>

学年が上がるにつれて、得られる情報や知識も増えてくる。その上で自ら行うことや課題を発見し対応することが多くなっていくが、適切に計画を立ててその課題を処理し解決することができていないと考えられる。



<キャリアプランニング能力に関する考察>

行動・改善 (O) については、「キャリアプランニング能力」を問う項目の中で最も低い結果である。

(M) (N) の結果をふまえて考えると、仕事の大切さや将来の目標は見据えつつあるものの、自ら取り組む、工夫するという点で課題がある。

【全体の結果から今後に向けて】

- 本町児童生徒のよさ (素直、真面目、協調性や規範意識の高さなど) を活かしながら、より積極的に自分の意見を表明したり、課題解決に向けて努力したりする子どもたちを育てたい。
- 全体的に受け身の姿勢の子どもが多いので、さまざまな集団活動における合意形成の活動の充実をとおして、自己の役割を理解させ、成功体験を積ませ、自信をもたせたい。そのことが、キャリアプランニングにおいても、主体的に自らを律して行動・改善できる子どもたちを育てることにつながるであろう。
- なかでも、「学級活動」の「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画」の学習をとおして、話し合いの進め方の指導を充実させるとともに、取組後の自己評価をふくむ振り返りまでしっかりとできる子どもたちを育てたい。

2 指導計画モデル作成

実態調査の結果をふまえ、国富町の児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の指導を小中9年間で継続して行えるように、学習発表会を一例として学習計画モデルを作成した。下の「学習発表会学習計画モデル」は、全ての学年で共通して、それぞれの段階でどの資質・能力に焦点をあてて指導していけばよいかを明確にしたモデルである。また、「学習発表会学習計画モデル」を基に、小学校低学年、中学年、高学年、中学校の4つの段階でも、発達段階に応じたモデルを作成した。

(1) 学習発表会学習計画モデル

時間	学習計画	指導上の留意点 (伸ばしたい資質・能力)
1時間	1 学習発表会の学級のめあて (目標) を立てる。	
	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会の内容やテーマを知らせ、全体に共有させる。 学級のめあてを考えることで、目的意識をもたせる。 	(I : 前向きに考える力・主体的行動)
	2 学習発表会までの計画を立てる。	
	<ul style="list-style-type: none"> カレンダーを活用し、発表会までの見通しをもたせる。 活動内容をもとにグループ編成を行い、班長を決める。 一人一人の長所を活かした役割分担を考えさせる。 	(L : 計画立案) (D : リーダーシップ) (F : 自分のよい所を活かす)
	3 自分のめあて (目標) を立てる。	
	<ul style="list-style-type: none"> 発表会で伝えたいことを意識し、本番でのめあて (目標) を考えさせる。 本番でのめあて (目標) の達成に向けて、練習でのめあて (目標) を考えさせる。 	(E : 自己の役割の理解) (F : 自分のよい所を活かす)
各 学 校 の 裁 量	4 学習発表会に向けて準備(練習)をする。	
	<ul style="list-style-type: none"> 体験活動 ・ 調べ学習 ・ まとめ作業 ・ 発表会練習 等 	
	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間自己評価カードで活動の振り返りをさせる。 自己評価カードを班長用とメンバー用に分け、自分の役割を意識させる。 	(K : 原因の追求、課題発見) (D : リーダーシップ) (L : 評価・改善)
	5 リハーサル (中間発表) をする。	
	<ul style="list-style-type: none"> 本番同様に行うことで、グループでの課題を見つけ、その課題を改善するために今後の計画を再検討させる。 	(K : 原因の追求、課題発見) (L : 評価・改善)
	6 学習発表会をする。	
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの練習を振り返り、自信をもって学習発表会に臨ませる。 発表をしての感想と他の班の発表を見た感想を記入させる。 	
1時間	7 学習発表会の振り返りをする。	
	<ul style="list-style-type: none"> 学級や自分のめあて (目標) に対する振り返りをさせ、自分のよかったことや友だちのよかったことなどを考えさせる。 学んだことをこれからどのように活かすかを考えさせる。 	(A : 他者理解) (F : 自分のよい所を活かす) (I : 前向きに考える力、主体的行動)

学習発表会学習計画モデル(小学校中学年)

時間	学習計画	指導上の留意点(伸ばしたい資質・能力)
1 時間	<p>1 学習発表会の学級のめあてを立てる。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループ編成をする。 ○ 校長、副班長の決定 ○ カレンダールをもとに計画を立てる。 ○ 練習、道具製作等 <p>3 自分のめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本番のめあてを決める。 ○ 練習のめあてを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> • どういう学習発表会にしたいのか、そのために自分にはどんなことができるのかを考えさせる。(I：前向きに考える力) • 班長には、見通しをもち、練習計画を立てられるように、カレンダー等を活用させる。(D：リーダーシップ) • カレンダールを活用することで、リハーサル、本番にむけて、逆算して計画を立てられるようにする。(L：計画立案) • これまでの学習を振り返りすることで、自分にできることを考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす)
各学校の最重	<p>4 学習発表会に向けて練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間、自己評価カードで振り返りをする。 <p>5 リハーサルをする。</p> <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあてに対する振り返りをする。 ○ 学級のめあて ○ 個人のめあて ○ 友だちのよかつたところやがんばっていたところを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 自己評価カードを活用することで、うまくいかないことについてもグループで話し合わせ、よりよい活動につなげさせる。(D：リーダーシップ、K：課題発見) • 班長、副班長を中心に話し合う時間を設けることで、グループの進行状況について確認させる。(L：評価・改善) • うまくいかなかったこと、他のグループの発表等から、計画を再構築させる。(K：課題発見、L：評価・改善)
1 時間		<ul style="list-style-type: none"> • 学習発表会を通してでできるようになったことをもとに、これからの生活で活かす方法を考えさせる。(I：前向きに考える力、F：自分のよい所を活かす) • 練習のときに期けてもらったことなどを記入させ伝え合わせることで、自分のよさに気づき、自己肯定感を高める。(A：他者理解)

学習発表会学習計画モデル(小学校低学年)

時間	学習計画	指導上の留意点(伸ばしたい資質・能力)
1 時間	<p>1 学習発表会の学級のめあてを立てる。</p> <p>④ 学習はつばいこう会をせいこうせよう。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カレンダールを活用する。 ○ グループ編成、役割分担をする。 <p>3 自分のめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本番のめあてを決める。 ○ 練習のめあてを決める。 <p>4 学習発表会に向けて練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 班長・副班長を中心に活動をする。 ○ 毎時間、簡単な振り返りをする。 <p>5 リハーサルをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本番と同じようにすることで、新たな課題を発見する。 <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級や自分のめあてに対する振り返りをする。 ○ がんばったこと ○ これからの生活につなげたいこと ○ 同じグループの人のよかつたところを振り返って伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 発表会で自分はどうなかなることができるのか考えさせる。(I：前向きに考える力) • カレンダールを活用することでリハーサルや本番に向けてどれくらい時間があるのかを知り、計画を立てられるようにする。(L：計画立案) • 自分の得意なことや好きなことから発表する内容を決めさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 号令をかけさせたり、進んで話し合いに必要な物を準備させたりする。(D：リーダーシップ) • 自己評価カードを活用して、自分やクラスの課題を見つけさせる。(K：課題発見) • よかつたところやうまくいかなかったところを確認したり、他の班の発表からよかつたところを見つけたら、次時の活動や発表会をよりよいものにさせる。(K：課題発見、L：評価・改善)
各学校の最重		<ul style="list-style-type: none"> • 学習発表会を通してでできるよくなるようになったことをもとに、これからの生活で活かせることを考えさせる。(F：自分のよい所を活かす、I：前向きに考える力) • 練習での友だちのよさにについても気づかせる。(A：他者理解)

学習発表会学習計画モデル(中学校)

時間	学習計画	指導上の留意点 (伸ばしたい資質・能力)
1時間	<p>1 学習発表会の学級の目標を立てる。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の日時や練習時間を確認し、本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 班に分け、その班の中で役割分担をする。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を考える。 <input type="radio"/> 練習の目標を考える。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードを記入する。</p> <p>5 中間発表をする。 <input type="radio"/> 学習発表会に向けての進捗状況を確認し、見ている人に深く考えさせるために、さらに工夫できないか考える。</p> <p>6 学習発表会をする。 <input type="radio"/> 発表をしての感想と他の班の発表を見た感想を記入する。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 目標に対する振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友達よかつたところや頑張っていたところを伝える。 <input type="radio"/> テーマに沿って、自分がこれからできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのような学習発表会にしたいか、そのために学級の一員として自分には何ができるか考えさせる。(I：前向きに考える力、主体的行動) • カレンダールを活用して、見直しをもたせる。(L：計画立案) • 長所を活かした役割分担ができるよう指導する。(D：リーダーシップ、F：自分のよい所を活かす) • 自分の役割を踏まえ、班の中でどのように行動していきたいのか考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 班で課題を見つけて、その課題を改善するために、今後の計画を再検討させる。(K：原因の追究、課題発見、L：評価・改善) • 自己の成長を振り返るとともに、友だちのよさに気付かせ伝えることで、自己肯定感を高め、次の単元につなげさせる。(A：他者理解、F：自分のよい所を活かす) • 学んだことをこれからどう活かすのか考えさせ、日々の生活とつなげさせる。(I：主体的行動)
各学校の授業	<p>1 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードを記入する。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の日時や練習時間を確認し、本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 班に分け、その班の中で役割分担をする。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を考える。 <input type="radio"/> 練習の目標を考える。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードを記入する。</p> <p>5 中間発表をする。 <input type="radio"/> 学習発表会に向けての進捗状況を確認し、見ている人に深く考えさせるために、さらに工夫できないか考える。</p> <p>6 学習発表会をする。 <input type="radio"/> 発表をしての感想と他の班の発表を見た感想を記入する。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 目標に対する振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友達よかつたところや頑張っていたところを伝える。 <input type="radio"/> テーマに沿って、自分がこれからできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 班長が班全体を見て、活動をより良いものにするように指導する。(D：リーダーシップ) • 自己評価カードを書かせることで、改善点を意識させ、次時の活動がさらによい活動になるよう指導する。(K：課題発見、L：評価・改善) • 班で課題を見つけて、その課題を改善するために、今後の計画を再検討させる。(K：原因の追究、課題発見、L：評価・改善)
1時間	<p>1 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の日時や練習時間を確認し、本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 発表会の日時や練習時間を確認し、発表会本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を立てる。 <input type="radio"/> 練習の目標を立てる。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードで振り返りを行う。</p> <p>5 リハーサルをする。 <input type="radio"/> 発表会に向けての進捗状況を確認し、うまくいかない部分について班長を中心に話し合い、今後の計画を再構築する。</p> <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級や自分の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友だちのよかつたところやがんばっていたところを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのような学習発表会にしたいのかを考えさせ、発表会へ希望をもって取り組めるようにさせる。(I：前向きに考える力) • カレンダールを活用して、見直しをもたせる。(L：計画立案) • 自分の興味・関心、長所などを把握し、役割を決めることができるようにさせる。(D：リーダーシップ、F：自分のよい所を活かす) • 本番の目標を立てるために練習で頑張ることを考えさせる。 • 練習の目標を立てるには、班長やメンバーという役割からも、どのように行動したらよいかを考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 自己評価カードを記入させ、毎時間の活動が計画どおりに進んでいるか、グループで協力して活動できているかなどを振り返らせ、次時の活動をよりよいものとする。(D：リーダーシップ、K：課題発見、L：評価・改善) • 他のグループの発表を見て、グループで課題を見つけ、その課題改善のための今後の活動を話し合わせる。(K：原因の追究・課題発見、L：評価・改善) • これまでの練習を振り返り、自信をもって学習発表会に臨むことができるようにする。 • 学級の目標を立てるために、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。 • 練習の目標を振り返ること、粘り強く努力したことや苦手なことからも逃げずに取り組めたことなどに気付かせる。(I：前向きに考える力) • 練習の目標を立てたこと、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。 • 練習の目標を立てたこと、粘り強く努力したことや苦手なことからも逃げずに取り組めたことなどに気付かせる。(I：前向きに考える力) • 練習の目標を立てたこと、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。

学習発表会学習計画モデル(小学校高学年)

時間	学習計画	指導上の留意点 (伸ばしたい資質・能力)
1時間	<p>1 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の日時や練習時間を確認し、本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 発表会の日時や練習時間を確認し、発表会本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を立てる。 <input type="radio"/> 練習の目標を立てる。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードで振り返りを行う。</p> <p>5 リハーサルをする。 <input type="radio"/> 発表会に向けての進捗状況を確認し、うまくいかない部分について班長を中心に話し合い、今後の計画を再構築する。</p> <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級や自分の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友だちのよかつたところやがんばっていたところを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのような学習発表会にしたいのかを考えさせ、発表会へ希望をもって取り組めるようにさせる。(I：前向きに考える力) • カレンダールを活用して、見直しをもたせる。(L：計画立案) • 自分の興味・関心、長所などを把握し、役割を決めることができるようにさせる。(D：リーダーシップ、F：自分のよい所を活かす) • 本番の目標を立てるために練習で頑張ることを考えさせる。 • 練習の目標を立てるには、班長やメンバーという役割からも、どのように行動したらよいかを考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 自己評価カードを記入させ、毎時間の活動が計画どおりに進んでいるか、グループで協力して活動できているかなどを振り返らせ、次時の活動をよりよいものとする。(D：リーダーシップ、K：課題発見、L：評価・改善) • 他のグループの発表を見て、グループで課題を見つけ、その課題改善のための今後の活動を話し合わせる。(K：原因の追究・課題発見、L：評価・改善) • これまでの練習を振り返り、自信をもって学習発表会に臨むことができるようにする。 • 学級の目標を立てるために、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。 • 練習の目標を振り返ること、粘り強く努力したことや苦手なことからも逃げずに取り組めたことなどに気付かせる。(I：前向きに考える力) • 練習の目標を立てたこと、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。
各学校の授業	<p>1 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードで振り返りを行う。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 発表会の日時や練習時間を確認し、発表会本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を立てる。 <input type="radio"/> 練習の目標を立てる。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードで振り返りを行う。</p> <p>5 リハーサルをする。 <input type="radio"/> 発表会に向けての進捗状況を確認し、うまくいかない部分について班長を中心に話し合い、今後の計画を再構築する。</p> <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級や自分の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友だちのよかつたところやがんばっていたところを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのような学習発表会にしたいのかを考えさせ、発表会へ希望をもって取り組めるようにさせる。(I：前向きに考える力) • カレンダールを活用して、見直しをもたせる。(L：計画立案) • 自分の興味・関心、長所などを把握し、役割を決めることができるようにさせる。(D：リーダーシップ、F：自分のよい所を活かす) • 本番の目標を立てるために練習で頑張ることを考えさせる。 • 練習の目標を立てるには、班長やメンバーという役割からも、どのように行動したらよいかを考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 自己評価カードを記入させ、毎時間の活動が計画どおりに進んでいるか、グループで協力して活動できているかなどを振り返らせ、次時の活動をよりよいものとする。(D：リーダーシップ、K：課題発見、L：評価・改善) • 他のグループの発表を見て、グループで課題を見つけ、その課題改善のための今後の活動を話し合わせる。(K：原因の追究・課題発見、L：評価・改善) • これまでの練習を振り返り、自信をもって学習発表会に臨むことができるようにする。 • 学級の目標を立てるために、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。 • 練習の目標を振り返ること、粘り強く努力したことや苦手なことからも逃げずに取り組めたことなどに気付かせる。(I：前向きに考える力) • 練習の目標を立てたこと、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。
1時間	<p>1 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の学級の目標を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 学習発表会の日時や練習時間を確認し、本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>2 学習発表会までの計画を立てる。 <input type="radio"/> 発表会の日時や練習時間を確認し、発表会本番までの見直しを立てる。 <input type="radio"/> 発表する内容を決めて、グループ分けをし、班長・副班長を決める。</p> <p>3 自分の目標を立てる。 <input type="radio"/> 本番の目標を立てる。 <input type="radio"/> 練習の目標を立てる。</p> <p>4 学習発表会に向けて準備をする。 <input type="radio"/> 毎時間、自己評価カードで振り返りを行う。</p> <p>5 リハーサルをする。 <input type="radio"/> 発表会に向けての進捗状況を確認し、うまくいかない部分について班長を中心に話し合い、今後の計画を再構築する。</p> <p>6 学習発表会をする。</p> <p>7 学習発表会の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級や自分の振り返りをする。 <input type="radio"/> 学級の目標 <input type="radio"/> 本番の目標 <input type="radio"/> 練習の目標 <input type="radio"/> 友だちのよかつたところやがんばっていたところを伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • どのような学習発表会にしたいのかを考えさせ、発表会へ希望をもって取り組めるようにさせる。(I：前向きに考える力) • カレンダールを活用して、見直しをもたせる。(L：計画立案) • 自分の興味・関心、長所などを把握し、役割を決めることができるようにさせる。(D：リーダーシップ、F：自分のよい所を活かす) • 本番の目標を立てるために練習で頑張ることを考えさせる。 • 練習の目標を立てるには、班長やメンバーという役割からも、どのように行動したらよいかを考えさせる。(E：自己の役割の理解、F：自分のよい所を活かす) • 自己評価カードを記入させ、毎時間の活動が計画どおりに進んでいるか、グループで協力して活動できているかなどを振り返らせ、次時の活動をよりよいものとする。(D：リーダーシップ、K：課題発見、L：評価・改善) • 他のグループの発表を見て、グループで課題を見つけ、その課題改善のための今後の活動を話し合わせる。(K：原因の追究・課題発見、L：評価・改善) • これまでの練習を振り返り、自信をもって学習発表会に臨むことができるようにする。 • 学級の目標を立てるために、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。 • 練習の目標を振り返ること、粘り強く努力したことや苦手なことからも逃げずに取り組めたことなどに気付かせる。(I：前向きに考える力) • 練習の目標を立てたこと、友だちのよさを認め、自分自身も頑張ることで、練習の目標を達成できたかという視点を与え、個人の振り返りをする。

(2) 振り返りの時間の設定

児童生徒の評価・改善の能力や前向きに考える力、他者の個性を理解する能力などを高めることをねらいとして、活動の振り返りの時間を設定した。以下は、振り返りの時間のワークシート例である。活動を様々な視点で振り返ることでねらいを達成できるようにした。

これまでの活動をふりかえろう

名前 ()

- 今回の活動で学級のめあてはどのくらい達成できましたか。

点～

理由

- 単元の第1時で立てた学級のめあて（目標）から、学級の活動のよかったところや課題など振り返らせる。
(I：前向きに考える力)

- 自分が練習や本番でがんばったことやうまくいったことを書きましょう。

- 単元の第1時で立てた個人のめあて（目標）から、振り返りをさせる。
- 練習での振り返りでは、班長や班員などの役割という視点も与えて振り返らせる。
- 学習発表会における成果を振り返らせることで、自分のよい所に気付くようにする。
(I：前向きに考える力)

- 友達ががんばっていたところや友達に助けられたことを書きましょう。

() さん

- 友達ががんばっていたところを書かせたら、その友達へ伝えるようにすることで、自己有用感をもたせるようにする。(A：他者の個性を理解する力)

() さん

- 全員が必ず誰かからメッセージがもらえるように配慮する。(I：前向きに考える力)

- 学習発表会でどのような所が成長しましたか。
それをどのように今後の生活に活かしていきますか。

- 自分の振り返りと友達からのメッセージから再び自分を見つめ直させる。
- 「班長として〇〇ができるようになったので・・・」とか「練習ではあきらめずにがんばれたので・・・」「友だちに優しく教えることができたので・・・」のように、今後の生活で活かせるような態度や心構えなどを振り返らせ、自分のよい所を活かす態度を養う。
(F：自分のよい所を活かす)

(3) 班長の役割の明確化

小中学校9年間を通して、人間関係形成・社会形成能力の一つであるリーダーシップを育成するために、小集団を作り、班長を必ず置くこととした。そして、発達段階に応じて班長の役割を明確化することで、段階的にリーダーシップを育てられるようにした。

【 中学校 】

- 見通しをもって、計画を立てる。
- メンバーを適材適所で役割分担をする。
- 班全体を見て、活動をよりよいものとする。

【 小学校高学年 】

- 相手の立場にたち、困っているメンバーへ助言するなどして励ます。

【 小学校中学年 】

- メンバーのお手本となるような行動をとる。
- メンバーの課題を見つけ、声かけをして、班での活動を進めていく。

【 小学校低学年 】

- 進んで活動する。
- メンバーに指示を出したり、号令をかけたりする。

VII 成果と課題 (○成果 ●課題)

- 本町の全児童生徒を対象にアンケートを実施し、キャリア教育に関する意識や態度についての実態把握を行うことができた。
- 現在行われている教育活動をキャリア教育の視点で見直すために、基礎的・汎用的能力の育成を意図した「学習発表会学習計画モデル」を作成することができた。
- 「教育研究センターだより」を発行し、本町小中学校教職員を対象にキャリア教育に関する学習情報を発信することができた。
- 研究初年度でもあり、実践化までにいたらなかった。今後、実践を重ねて検証しながら、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。
- 「学習発表会学習計画モデル」を活用し、全教科全領域においてキャリア教育の視点に立った指導を充実させていくことが必要である。
- キャリア教育と「くにとみ教育ビジョン」とのつながりをより意識し、本町ならではの教育を目指していきたい。

【引用・参考文献】

- ・「宮崎県キャリア教育ガイドライン」(宮崎県教育委員会)
- ・「小学校キャリア教育の手引き」「中学校キャリア教育の手引き」(文部科学省)

【研究同人】

所長	豊田暎光 (国富町教育長)	副所長	日高健一郎 (教育対策監)
研究指導員	鈴木 光 (スクールサポーター)		
研究員	坂下逸朗 (本庄小教諭)	杉田知穂 (森永小教諭)	
	桐山雄介 (八代小教諭)	山下祐子 (木脇小教諭)	
	岩本武蔵 (本庄中教諭)	岡本圭司 (八代中教諭)	押川忠昭 (木脇中教諭)